

令和3年度 地方創生推進交付金事業

1. 市単独事業①

事業名	まちにコミットするローカルイノベーション創出事業【R元～R3年度】							
事業内容	《事業の全体像》 地域資源の活用と地域課題の解決をビジネスの手法で考えるローカルイノベーターを育成し、新たなビジネスやイノベーションを創出することで、外貨の獲得や地域経済の好循環につなげる。 また、地方に関心のある都市圏在住者や大学生等を対象に本市のヒトやコトにフォーカスした情報発信や人材育成に取り組むことで、本市に関わりたい、暮らしたいと思う、新たな人の流れを生み、U・Iターンを促進させるほか、市街地活性化を中心とした移住・創業支援の取組みとの連携を図ることで、人口の社会減の抑制と街なかを中心とした市全体の賑わいを創出する。 《R3年度事業内容》 ●たなべ未来創造塾（事業費 2,497,202円） 交流人口の増加と地域経済の活性化を図るため、産官学金が一体となり、地域課題の解決や地域資源の活用をビジネスの視点で考える人材「ローカルイノベーター」の育成とビジネスモデルの創出に取り組むほか、女性の創業を促す取組を展開することで、地域を担う多様な人材を育成する。 ●関係人口創出事業（事業費 11,000,000円） 都市圏に暮らす20代～40代のローカル志向層や本市にゆかりのある者をターゲットとし、本市に活力をもたらすヒトやコトにフォーカスしたプロモーションを行う。また、テレビ番組やECサイトを有する首都圏メディアと連携することで、新しい生活様式に配慮した新たな関係人口の創出拡大事業に取り組む。さらに、低山トラベラーをターゲットに、熊野の里山と共存する地域課題について議論を深める取組を行い、熊野の保全・維持と地域課題の解決の両方に寄与する関係人口の創出拡大を図る。 ●大学生みらいサポート事業（事業費 238,240円） 大学生の将来の選択肢の一つに「地元」や「地域」が入るきっかけを作るため、和歌山大学と連携し、本市のヒト・コトを題材とした寄附講義を開講する。 ●市街地活性化施設活用事業（事業費 33,000,000円） 街なかにおける交流・情報発信拠点である市街地活性化施設（tanabe en+）において、新規創業を支援する取組や施設を活用した街なかの賑わい創出につながる取組を展開する。 《参考（実績額）》 事業費 46,735,442円（うち交付金充当額 19,408,721円）	本事業における重要業績評価指標（K P I）						
		指標	総合戦略との関係性	区分	（基準値） H30	R元	R2	R3
		本事業を通じた関係人口 （本事業参加者のうち、自主的に本市を訪れた人数） <u>3年間で70人</u>	◎	計画値	0人	10人	20人	40人
				実績値		53人	36人	66人
		本事業を通じた移住者数 <u>3年間で10人</u>	◎	計画値	0人	2人	3人	5人
				実績値		0人	8人	1人
		本事業を通じた創業・第2次創業件数 <u>3年間で22件</u>	◎	計画値	0件	1件	8件	13件
				実績値		6件	9件	14件
たなべ未来創造塾受講者数 <u>3年間で52人</u>	◎	計画値	31人	12人	20人	20人		
		実績値		12人	23人	22人		

※本事業におけるK P Iと総合戦略におけるK P Iの関係性
①総合戦略と同K P I、②総合戦略と関連（同K P Iの本事業のみから測定できるもの）、③指標を達成することで総合戦略のK P I達成に繋がるもの

市単独事業②

事業名	地域資源を活用した街なかの賑わい創出事業【R元～R3年度】							
事業内容	《事業の全体像》 本市における「偉人」や「世界遺産」などの地域資源は本市を訪れる来訪者にとって関心度が高く、外国人観光客においても顕著となっている一方で、外国人観光客の多くは市街地エリア外への宿泊が大半であることから、市内外への地域資源の情報発信に加え、外国人観光客にもわかりやすい情報発信や受入体制強化のための取組みにより、滞在しやすい街なかの空間を醸成するとともに、闘雞神社や三偉人（武蔵坊弁慶、南方熊楠、植芝盛平）を軸とした観光プランの造成や情報発信を行うことで、街なかへの人の流れと賑わいを創出する。 《R3年度事業内容》 ●植芝盛平翁顕彰事業（事業費 2,000,000円） 新武道館における合気道の講習会やゆかりのある神社で行う奉納演武を展開することで、合気道関係者を中心に国内外からの人の流れを創出するほか、合気道創始者植芝盛平翁生誕の地として市内中学校の武道教育における合気道の導入を支援することで、植芝盛平翁及び合気道について学ぶ機会を創出し、ふるさとを愛し、地域を誇りに思う人材を育成する。 ●市街地周遊促進事業（事業費 0円） 新型コロナウイルス感染症の影響で未実施 《参考（実績額）》 事業費 2,000,000円（うち交付金充当額 750,000円）	本事業における重要業績評価指標（KPI）						
		指標	総合戦略との関係性	区分	（基準値） H30	R元	R2	R3
		外国人宿泊客数 <u>R3年度に50,000人</u>	①	計画値	36,821人	41,821人	46,821人	50,000人
				実績値		50,926人	3,317人	369人
		武道（合気道）教育の導入校 <u>R3年度に7校</u>	③	計画値	5校	5校	6校	7校
				実績値		6校	6校	9校
		新武道館における合気道の合宿利用人数 <u>R3年度に1,500人</u>	③	計画値	0人	0人	500人	1,500人
				実績値		0人	20人	172人
植芝盛平顕彰館入館者数 <u>R3年度に5,300人</u>	①	計画値	0人	0人	2,100人	5,300人		
		実績値		0人	2,698人	2,669人		

※本事業におけるKPIと総合戦略におけるKPIの関係性

㊦総合戦略と同KPI、㊦総合戦略と関連（同KPIの本事業のみから測定できるもの）、㊦指標を達成することで総合戦略のKPI達成に繋がるもの

2. 広域連携事業①

事業名	地域を主体とした世界農業遺産活用戦略推進事業【H29～R3年度】								
事業内容	≪事業の全体像≫ みなべ、田辺地域では、梅の生産過程等を踏まえた梅そのものの価値を再認識する中で、梅を核とした「農業システム」を世界に誇れる資源として、国連食糧農業機関（FAO）に対し「世界農業遺産（GIAHS）」への申請を行い、2015年12月15日に認定されたところであり、世界農業遺産の認定を契機として、引き続き梅産業全般のグローバル展開を図るとともに、地域の魅力・価値を再発見・再構築し、その魅力・価値を十分に理解して発信できる人材を育成していくことを通じて、梅産業のイノベーションを実現する。 ≪R3年度事業内容≫ ●みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会負担金 みなべ・田辺の梅システムの保全と活用を図るため、GIAHS（世界農業遺産）活用プランに基づく取組を行う。 ≪参考（実績額）≫ 事業費 1,341,508円（うち交付金充当額 667,000円）	本事業における重要業績評価指標（KPI）							
		指標	区分	(基準値) H28	H29	H30	R元	R2	R3
		海外からの人の流れ（訪日外国人宿泊客数）	計画値	81,809人	91,809人	101,809人	112,809人	124,809人	136,809人
			実績値		<u>R3年度に130,000人超</u>	78,996人	78,805人	80,694人	4,871人
		梅システムマイスター育成や地域を主体とした取組を推進することで、年間の新規就農者の増加を目指す	計画値	11人	14人	17人	21人	25人	30人
			実績値		<u>R3年度に30人</u>	19人	25人	21人	23人
		ミツバチによる生物多様性評価、分析により、新しい価値を発見することで、ニホンミツバチの飼養数の増加を目指す	計画値	486群	511群	536群	586群	636群	686群
			実績値		<u>R3年度に686群</u>	515群	87群	106群	88群

※本事業の評価検証については、「みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会」において実施する。